

リーベル「おしゃべり箱」(親のサロン)

6月7日、作業療士の岸良至氏の講話。

～「食事」・「食べること」ということ～

保護者10名が参加されました。

食べることは人間の三大欲求。私達は食べる時、どんな味や触感など情報があり食べているようです。(そこまで考えませんが…)

その情報(経験)が、子ども達になかったとしたら・・・。

「これはなに？」と思って、食べ物を色んな角度から見たり、細かく分解したり、一口口に入れて戻したり・・・。

子どもの行動が、マナー違反でも、直ぐに怒るのではなく、

「どうしてかな?確認しているのかな?」と思うことが大切。

『知らないものを口に入れる恐怖を共感して欲しい!』

子どもに、安心して食べられるように楽しい経験や情報を入れること。ただ、親が手の込んだものを作るのは、大変で負担に感じ続かない為、簡単なものが良い。

その後は、「実際に感じてみよう。」ということで体験。

質疑応答など。

「食べることは深いな～」と感じた時間でした。

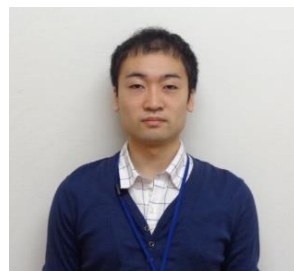
リーベルのホームページに詳しく掲載しています。ご覧ください。



まいつきかいさいちゅう
毎月開催中!



ねが よろしく願います♪



8月1日より勤務して
ます鶴田真也です。
以前は精神保健福祉士
として精神科の病院
や児童相談所で勤務し
ていました。

まだ経験は浅いですが、少しでも早く皆様
のお役に立てよう一生懸命頑張りますので、
どうぞよろしく願ひ致します。

リーベルホームページへようこそ

URL : <http://liber-yame.net>

- 福祉ブックWeb版・事業所マップ
- 入所施設・グループホーム空き情報
- 交流会やイベント情報・分科会などの報告書

リーベルホームページを是非ともご利用ください。

ご意見・ご要望もお待ちしております!

編集後記

九州北部豪雨から約3ヶ月。完全復旧にはまだ時間がかかると思いますが、現地では少しずつ復旧が進められ、町を元気づけるために多くのイベントが開催されています。様々な形で私たちが協力したいと思います。また、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の念を捧げます。(K・I)

第39号 八女地区障害者基幹相談支援センター

平成29年 10月 27日



リーベル通信



発行責任者: NP0法人八女地区障害者相談支援センターリーベル

住所: 八女市本町17-2 電話: 0943-22-2610 FAX: 0943-22-2664

E-mail: liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL: <http://liber-yame.net>

平成29年度第1回リーベルネットワーク研修会

平成29年8月1日に平成29年度第1回リーベルネットワーク研修会を

開催しました。今回は佐賀を拠点に不登校、ひきこもり、非行等不適

応問題を抱える子ども達やニート、フリーター等若年者の自立支援に

取り組んでおられるNP0法人スチューデント・サポート・フェイス

(S.S.F)より谷口仁史先生をお招きしてご講演いただきました。「ど

んな境遇の子ども・若者も見捨てない!アウトリーチ(訪問支援)と

重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」をテーマに、先駆的な活動をご紹介いた

だき、80名の参加者それぞれが業務の中で、また八女地区においてできることを考えました。

孤立化・深刻化しているケースにおいては、専門性も一定の信頼を得られなければ発揮することが

できない。単一の分野、機関、担当者では限界があり、特に一つの専門性では

得意な視点で見ようとする傾向があり、環境面と併せて関係機関が連携した

重層的な支援を展開する、過去に受けた支援のアプローチ方法を検討する、

価値観のチャンネルを合わせる、配慮のない体験は苦手意識を生むこと等々、

事例をもとに教えていただき沢山のヒントを得ました。「仕方がない、先送り」

ではなく、今回の研修タイトルである「どんな境遇の子ども・若者も見捨て

ない」という決意をもってこの八女地区でも取り組んでいきたいと思ひます。



できない。単一の分野、機関、担当者では限界があり、特に一つの専門性では得意な視点で見ようとする傾向があり、環境面と併せて関係機関が連携した重層的な支援を展開する、過去に受けた支援のアプローチ方法を検討する、価値観のチャンネルを合わせる、配慮のない体験は苦手意識を生むこと等々、事例をもとに教えていただき沢山のヒントを得ました。「仕方がない、先送り」ではなく、今回の研修タイトルである「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない」という決意をもってこの八女地区でも取り組んでいきたいと思ひます。

分科会報告



こども



ぶんかかい

今年度第1回目の定例会は皆様おなじみ八女市家庭児童相談室の高倉女史

よりこどもの緊急時対応についてご講話いただきました。家庭児童相談室

の活動から児童相談所、学校、相談支援事業所等との連携まで支援体制や

支援過程についてお話しいたき、改めて家庭児童相談室が担う役割の

重要性を認識しました。「こどもの未来を守るために」というお話の中では、家庭児童相談室は現場で

はないため、学校や事業所等現場でこどもや親の変化に気づいてほしい、こどもが揺らいでいるときは

家庭が揺らいでいるときという認識が必要であること等、発見への意識をもつことが大切であることを

伝えていただきました。「寄り添うこと」「親を責めない」「あせらない」「一人で抱え込まない」とまと

められ、「愛着は他人でもつくれる、つくり直せる」という言葉が胸に響きました。



高倉さん

いつもありがとうございます!



内容の報告、意見交換。ガイドラインに沿い対応しているが、費用面については各事業所で異なる為、個別相談が必要なことを確認しました。週末に利用が集中するため、人材不足の現状も浮き上がりました。



こんかい けんしゅう やめちく ざいたくしゃ
 今回の研修を八女地区の在宅者の
 よ か しえん きょうぎ あしが
 余暇支援について、協議する足掛かり
 にしたいと思います。



む姿勢に繋がる研修会でした。

※八女地区の障害福祉サービス提供事業所のみならず、アンケートへのご協力ありがとうございました。



販売会。当日は、お天気にも恵まれ、活気ある販売会になりました。



じ りつ し えん きょう ど かい
自 立 支 援 協 議 会



ており、八女地区では昨年11月に立ち上げた検討委員会を中心に進めること。また、高齢化・過疎化による農業の担い手不足、障害者の雇用推進を踏まえて農業と福祉の連携による「農福連携」についても今後の重要検討課題であり、積極的に推進を行うことの2点です、障害がある方が安心して生活できる住みやすい八女地区を目指してまいります。

けんしゅうほうこく
研修報告

今年度の基幹相談支援センター全国研修会が9月24日から25日にかけて東京で開催され、参加してきました。初日、障害者総合支援法の動向についての情報とともに、講義として虐待通報時の事実確認の面接技法や主任相談支援専門員の役割、災害時の相談支援専門員が行うべきことなどを学び、二日目には、グループスーパービジョンを事業所内で積極的に取り入れていくことは相談支援専門員の人材育成の方法として有効であることを学びました。